

1 「火山」霧島

今回大会で使用する山域である霧島山系は、日本でも有数の活火山地帯で、現在私たちが見ている山系は約 120 万年前から続く火山活動において形成されたものである。現在小林市がある地域は約 54 万年前、現在えびの市がある地域も約 34 万年前に火山活動が見られ、前者は小林カルデラ、後者は加久藤カルデラと呼ばれる窪地に形成された市街地である。その後約 30 万年前からは烏帽子岳や栗野岳、獅子戸岳といった火山群が活動をはじめ、さらに 10 万年前からの活動により現在の霧島山系が形成されたものと考えられている。上空からの空中写真を眺めてみると、火山が北西－南東方向に伸び、さまざまな火山地形が見られることから「火山の標本箱」とも呼ばれ、2010 年 9 月には日本ジオパーク委員会から霧島ジオパークとして認定されている。



霧島ジオパークキャラクター「キリッチ」



火山は私たちの生活に大きな影響を与えている。火山、といえば火山災害が真っ先に思い浮かぶ。2008 年に起きた新燃岳噴火では、高原町や小林市、都城市においては降灰や火山砕屑物の降下により地域住民に大きな被害をもたらしたのは記憶に新しい。なお、そのときの噴火により新燃岳火口に溶岩ドームが形成され、その崩壊により小規模であるが火砕流が確認されている。江戸時代に起こった噴火の火砕流により形成された「炭化木（たんかぼく）」が残る沢が龍（竜）王岳（1175m）～直下に見られるが、このような大規模な火砕流が起これば、と考えると、火山の脅威を感じずにはいられない。なお、現在でも火山活動がみられ、新燃岳山頂から半径 1 km は立ち入りが制限されており、警戒レベルも最近引き下げられたが引き続き火山噴火に注意しなければならない。

一方、火山は私たちに大きな恵みを与えていることも忘れてはならない。まず、私たちが登山大会ができるのも、霧島山系があつてこそであるし、美しい山体や多くの火口湖には毎年多くの登山客や観光客でにぎわう。この山域では古くは 10 世紀中ごろから天台宗の僧性空（しょうくう）上人が霧島六社権現として整備するなど、山岳信仰の対象として崇められてきた。また 1866 年には坂本龍馬・おりょう夫妻が塩浸（しおひたし）温泉で寺田屋事件の傷を癒すために霧島を訪れ、高千穂峰の登山をするなど日本初といわれる新婚旅行をしたことが知られている。また、霧島山系には火山性堆積物を経て地上・地下を流れる清らかでおいしい水があり、焼酎や清涼飲料水、ミネラルウォーターなどを製造する飲料水工業が多数立地している。さらには、白鳥温泉や霧島温泉、小林、高原、栗野（現在の湧水町）に点在する多くの温泉がみられ、貴重な観光資源として利用されている。今回宿舎で利用させていただく京町温泉も、そのひとつである。

2 高千穂峰コースのルートガイド

このコースの出発から高千穂峰（1573.4m）までは、平成 22 年に行われた「美ら島沖縄総体 2010」で使用されたルートで、霧島神宮から高千穂河原までの静かな登山コースと、高千穂河原から高千穂峰までの登山客が多いルートという二つの性格を持つルートに、九州自然歩道である霧島東神社までのルートを加えたロングルートである。晴れたら見晴らしがよく、遠くは屋久島まで望める絶景コースである一方、風雨が強い日は滑落の危険があり、東霧島神社周辺では山ヒルが多く生息していることから、リスクも伴うコースである。心してかかりたい。



霧島神宮

目にも楽しい自然林となる。途中温泉のポンプを右手側に見ながら進んでいくと、霧島ハイツ横の一般道と出会い、そこを横断する。左手に神宮川の砂防ダムを見ながら進むと、樹齢 400 年以上ともいわれるスダジイの巨木を観察できる。その先の左手には「おりょう滝」と呼ばれる小さな滝があるが、普段は水流がないために見過ごされがちである。その後は緩やかな丘を進むイメージで、比較的歩きやすい。ホオノキ、アカガシ、ヒメシャラなどを見ながら進むと、林道と交差する。最近開発があつてか、きれいな木道があるところもあるが、ぬかるみもあるので注意して歩きたい。左手に沢を見ながら急坂をあがるところには右手に県道が見えてくる。森自体も明るくなり、ユズリハ、ヒメシャラ、アカマツ、ミツバツツジ、ヤマザクラなどが観察できる。アカショウビンの「ホロロロロロロ…」の声を聞きながらしばらく行くと、左側に新燃岳噴火で発生した火山砕屑物で埋まる沢、その先に高千穂河原キャンプ場（2014 年 6 月現在閉鎖中）が見えると高千穂河原は近い。

高千穂河原ビジターセンターのあるところではいったん顔を上げると、東に見えるのが御鉢である。ここからパーティー行動となるが、アカマツのほか、ミズナラやノリウツギ、リョウブなどの落葉硬葉樹など植生がスタート地点と異なることにも気をつけながらスタートしたい。霧島神宮古宮址を見て右側に進むと石段が整備されている登山コースに入る。途中、観光客も多くなるのでそのかたがたへの配慮をお願いしたい。やがて、石段が終わり植生がなくなるところからいよいよザレ場のスタートである。最初は一歩進んで半歩下がるような歩きにくいザレ場が続く。少し登っていくと、赤茶けた岩のあるルートを通して急登を進んでいこう。ここは 2008 年の新燃岳（1420.8m）の噴火により火山礫が堆積し景色が一変したところでもあり、噴火前に上った諸君はその変化に驚くだろう。5 月下旬から6月中旬くらいまでは、右手斜面にミヤマキリシマが山を彩り、登山客の目を楽しませてくれる。森林限界から 30 分くらい進み、平坦になると御鉢の火口縁に着く。そこからは馬ノ背と呼ばれる細い火口縁を歩いていく。右も左も急斜面になっているため、強風時には滑落や帽子などの私物が飛ばされないよう注意する。御鉢を半周し、高千穂峰本峰へ登る登山客が見えてくるといったん下り、背門丘（せたお）に出る。霧島神宮の前身があつたとされるところで、その広場の片隅に鳥居と小さなお堂があり、登山客がつんでいくのであろうか、ケルンも積んである。ここでいったん休憩し、隊行の準備が整ったらいよいよ高千穂峰に取り付く。ここもザレ場になっているほか、背門丘からはコ

霧島神宮参道入り口にある駐車場で降車して、トイレ休憩を済ませたら出発しよう。目の前には朱色の本殿が美しい霧島神宮が私たちを出迎えてくれる。神宮本殿から左に進み、コンクリートで固められた道を登ると登山道と出会う。登山道入り口からしてしばらくはスギの人工林を進んで徐々に高度を上げていく。谷を大きく巻き、右手の尾根に上がると、スダジイやアカガシ、ウラジログシといった照葉樹のほか、地上にはヤブツバキの花が落ちていたりギンリョウソウが見られたりと、



ミヤマキリシマの咲く登り

イワカンスゲの作ったアースハンモックがところどころ見られる。20分ほどで山頂に着く。

山頂には天孫降臨伝説の象徴である「天の逆鋒（さかほこ）」が鎮座し、登山客の記念写真スポットとなっている。また、山頂脇には現在無人の小屋と携帯トイレブースがある。山の環境を守る観点からも、用便を我慢する健康面の影響からもぜひ携帯トイレを持参したい。ここからは、霧島連山が一望できるほか、高原町、小林市、霧島市のほか宮崎市のシェラトン・グランデ・オーシャンリゾートのホテルや鹿児島島の桜島が遠望できる。



高千穂峰直下のコイワカガミ

山頂から東へさらに進み、九州自然歩道を歩く。高千穂峰直下は急斜面を下る。途中、ミヤマキリシマが見られるほか、初夏にはコイワカガミも観察できる。小さな花々であるが、可憐な花を咲かせる道を通り、古い鳥居のある地点に出ると、アザミの混じる一面の草原地帯にでる。少し平坦になったら左手に天孫降臨（てんそんこうりん）コースとの分岐、少し進むと鞍部右手に夢ヶ丘コースの登山口と合流する。天孫降臨コースは11月に行われる霧島登山マラソンのほか高原町が主催するジオパーク登山イベントなど多くの観光客が利用し、こちら

のコースからも多くの登山客が利用する。なお、夢ヶ丘コースは2014年6月現在も利用ができない状態である。このコースは7年前の全九州大会でも使用されたコースであるが、静かな登山道でリュウブヤノリウツギなどの自然林豊かなルートである。早期の復活を祈りたい。

双子石（ふたごいし）の鞍部は晴れると風が吹き上げてきて気持ちがいい。高千穂峰から東の道は全般に細いので休憩の際には登山客に配慮して休憩をしてほしい。その先いったん登り返すと双子石が見えてくる。道標もあるのですぐわかるだろう。双子石からは再びくだりとなる。下りは傾斜が急なところもあり、細い悪路を進むところがあるので、くれぐれも注意して下りたい。いわば地帯を過ぎると、ミズナラなどの落葉硬葉樹が見られる樹林帯に入る。さらにしばらく下っていくとジグザグとした登山道を進み土管のある山道につくころにはヤブツバキやアカガシなどの照葉樹が見られるようになり、高度を下げてきたことを実感する。さらにルートを下っていくとやがて傾斜は緩やかになり、次第にスギの人工林が見えてくる。右に沢が見えるところでは道が細く、滑落しやすい悪場があるので、急いで下りていきたいという気持ちを抑え慎重に進んで行きたい。ここまでくると霧島東神社は目の前だ。この周辺は前述の通り山ヒルが多く、被害も多い。これは霧島が雨が多く、ヒルには生息しやすい環境であるほか、キュウシュウジカや人間がキャリア（運搬者）となり生息域を拡大させているという現実もある。特にシカは植生を食い荒らし、貴重な植物までも食料にしてしまうため生態系の保護が求められているところもある。ヒル対策を十分にしておきたいが、咬まれたら霧島東神社周辺に落とさず確実に駆除したい。霧島東神社の東、性空上人像のある広場からアスファルトの道を経て、タケが茂る登山道を降りるとゴールの祓川に到着する。



双子石



ヤマビル(Wikimedia Commons)

3 白鳥温泉・郷土の森・韓国岳コースのルートガイド

新燃岳の噴火により、霧島では最もポピュラーな韓国岳～高千穂河原の縦走コースが使用できなくなった。そのため、これまで一部のコアな愛好者しか知らない古い登山道の復活が相次いだ。この郷土の森コースもその一つである。高千穂峰コース同様、前半は静かな照葉樹林帯および針葉樹林帯を歩くコースであるが、不動池から韓国岳、大浪池ルートは多くの登山客・観光客でにぎわう。性格を異にするルートで、楽しみが多い。競技のみならず、ぜひ山を愛でながら登ってほしい。



スダジイの巨木

幕営地から白鳥神社下の県道でバスを降り、そこからスタートする。白鳥神社は奈良・東大寺で用いられている木材の供給地であり、その縁がある古社である。厳かな境内は神秘的な雰囲気さえ漂わせている。さて、白鳥温泉下湯でトイレを済ませて出発。白鳥温泉下湯先の広場から照葉樹の森へ入っていこう。アカガシ、ヤブツバキ、スダジイといった自然林の中には、ササクレシロオニタケやコテングタケモドキ、キホウキタケ、ドクササコなどさまざまな菌類も生息する。林道と出会い、さらに高度を下げて左手の尾根から分けれると白鳥川の徒渉点につく。降水量の多い時期は水量に気をつけながら歩こう。ここからはいったん急登となる。そこを進み、尾根を右にトラバース気味に進むとさらに高度を上げながら進む。この途中にはスダジイやアカガシ、モミの巨木が次々に登場し、私たちの目を驚かせてくれる。約10分ほど登ると傾斜の緩やかな地帯にでる。途中右側に満谷（みつたに）林道入り口の看板を見ながら、左手に水道施設が

ある広場を通過し、また緩やかに登っていく。苔むした石や倒木、粘土質の土など通過しにくい場所が多いので、隊列が離れないように進んでいきたい。ウラジログシやツガの巨木を見ながら進んでいくと郷土の森の終点にある看板と合流。緩やかな坂道をさらに進んでいくと尾根を乗っ越しアカマツ林が主体の明るい森へと到着する。足下を見るとミヤマキリシマも目に入る。その先を進むと左手に曲がって甕岳の分岐に到着。それをさらに進むと池巡りコースとの分岐となるので右方向へ進む。緩やかながらアップダウンのあるコースで、変化に富んで楽しい。少しずつ進むと池巡りコースとの分岐となり、整備された石段を登っていくと右手には不動池、正面には硫黄山、韓国岳が見えてくる。

硫黄山は霧島山系では最も新しい火山で、1768年に噴火を起こした記録が残っている。1962年（昭和37）年までは硫黄の採掘場でもあった。現在では火山地帯特有の火山ガスも見られなくなり、賽の河原にわずかに硫黄の付着した石が見つかる位である。えびの高原の「えびの」という地名は硫黄山から噴出する火山性ガスがススキをえび色に変色させるためと言われている。エコミュージアムセンターでは霧島の自然が学習できる。また、えびの高原では天然記念物のノカイドウがあるが、シカの食害でその保護が急務となっている。

県道1号線を横断し、石段を上がっていくとベンチのある広場になり、ここから韓国岳を目指す。韓国岳は霧島山系最高峰（1700.1m）を誇る山で、週末になるとファミリー登山客も多い。えびの高原から眺めると韓国岳は2つのピークがあるように見えるが、これは火山爆発の際に火山壁が崩壊したためであり、火口900m、火口壁は約300mの断崖を持つ臼状火山である。石橋で徒渉点を渡り進んでいくと1合目である。いよいよ登りのクライマックスである。登山道にはキリシマミズキやリョウブ、ミズナラなどが観察できる。3合目を過ぎると右手にえびの高原を見下ろすことができ、5合目まで一気に登っていく。5合目には広場があるのでいったん休憩していききたい。また登山道に登り7合目を過ぎると植生も樹木がなくなり、緩やかな登りになる。そうするとゴールは間近だ。岩肌が露出して



ノカイドウ（出典：自然公園財団）



韓国岳を見上げて

るのが前方に見えると韓国岳山頂である。韓国岳山頂からは獅子戸岳（1429m）、新燃岳、中岳、高千穂峰の他、矢岳（1131.6m）、大幡山（1352.5m）のほか今から進む大浪池、など 360° の大パノラマである。存分に景色を堪能したい。

韓国岳から南東方向に下りていく。最初はガレ場の続く道だが、次第に整備された木道を進む。雨の日は滑りやすいので最新の注意を払いながら下っていきたい。途中からは植生も復活し、脇にはスズタケ、その先にはリョウブ、ミズナラ、シロモジなどの木々が見られる。急坂を下り、木の階段がなくなると韓国岳避難小屋脇に到着する。右折し木道を進むと、右にえびの高原への分岐を分ける。左折すると大浪池コースだ。過去に整備されたであろう石段を上り詰めると大浪池展望所が見えてくる。大浪池は日本一高い水面標高（1241m）をもつ火口湖でハリモミ、ブナ、ミズナラ、ベニドウダン、マンサクなど多彩な植物と出会える。火口縁を快適に周回すると大浪池展望所に到着する。多くの観光客が訪れ、大浪池とその先にある霧島山系の美しさから岳人を魅了してやまない場所となっている。脇にある避難小屋は現在使用禁止となっている。アカマツやハイノキ、ミツバツツジが見られる整備された石段・石畳を下っていけば大浪池登山口に到着、登山行動が終了する。



韓国山頂直下から大浪池

参考文献

平成 22 年度全国高等学校総合体育大会登山大会 第 54 回全国高等学校登山大会予報第 1 号

九州の山研究会編「九州の山歩き 南部編」海鳥社

緒方優・門田純「新・分県登山ガイド 44 宮崎県の山」山と溪谷社

山と溪谷社編「九州百名山地図帳」山と溪谷社

大作晃一・吹春俊充「見分け方がよくわかる！ おいしいきのこ 毒きのこ」主婦の友社

霧島ジオパーク HP (<http://www.mct.ne.jp/users/kiri-geopark/>)

Wikimedia Commons (<http://commons.wikimedia.org/>)

えびの市 HP スタジイの写真他 (<http://www.city.ebino.lg.jp/>)

一般財団法人 自然公園財団 HP (<http://www.bes.or.jp>)

大会日程

日 時間	第1日 (7月4日)	第2日 (7月5日)	第3日 (7月6日)	第4日 (7月7日)
4:00		起床	起床	
5:00				
6:00		5:50 集合 バス乗車 霧島神宮到着	5:50 集合 バス乗車	起床
7:00		行動開始	白鳥神社到着 行動開始	朝食
8:00		霧島ハイツ横	渡渉点	宿舎出発 受付
9:00		高千穂河原		
10:00		馬の背	郷土の森	交流会 閉会式
11:00	九州専門委員長会議	高千穂峰	不動池 硫黄山	解散
12:00			五合目	
13:00	監督リーダー会議	双子石	韓国岳	
14:00	開会式	霧島東神社	韓国岳避難小屋 大浪池展望所	
15:00	競技開始	祓川 バス乗車	大浪池登山口 バス乗車	
16:00		幕営地到着		
17:00			京町温泉到着	
18:00		リーダー会議	夕食	
19:00		監督会議		
20:00				
21:00	消灯	消灯		
22:00			消灯	

荒天対策

	第1日 (7/4)	第2日 (7/5)	第3日 (7/6)	第4日 (7/7)
第1日の荒天	計画通り	計画通り	計画通り	計画通り
第2日の荒天	計画通り	サブ行動	計画通り	計画通り
第3日の荒天	計画通り	計画通り	サブ行動	計画通り
第4日の荒天	計画通り	計画通り	計画通り	計画通り

連絡先

高体連事務局
宮崎市月見ヶ丘5丁目2番地1号
宮崎南高等学校内
TEL 0985-51-4109 FAX 0985-51-4298

高体連登山専門部
宮崎市大塚町柳ヶ迫3975番地2
宮崎西高等学校内
TEL 0985-48-1021 FAX 0985-48-0783

ひなもりオートキャンプ場 小林市細野字山之前 5739-14
TEL 0984-23-8100

御池キャンプ村
西諸県郡高原町蒲牟田長尾
TEL 0984-42-4038

えびの市観光協会 TEL 0984-35-3838 FAX 0984-35-2488

警察
細野駐在所 小林市細野 4353-3 TEL 0984-23-5037
高原交番 高原町大字西麓 872-1 TEL 0984-42-1041
えびの高原派出所 えびの市末永 1470 TEL 0984-33-3433

病院
小林市立市民病院 小林市細野 2235-2 TEL 0984-23-4711
えびの市立病院 えびの市大字原田 3223 TEL 0984-33-1023

宮崎県高体連登山専門部ホームページ

<http://www.geocities.jp/vaioclimber/>

合宿に来られる皆さまへ

全九州登山大会への出場、おめでとうございます。

キャンプ場の利用については、予約をお願いします。

夜間の到着や早朝の出発も、予約時に連絡をお願いします。

ひなもりオートキャンプ場

ご利用上の注意！

1 御利用時間について

宿泊使用		チェックイン		チェックアウト	
	テントサイト	14:00~17:00	8:30~13:00		
	キャビン・トレーラー	14:00~17:00	8:30~11:00		
売店・レンタル品貸出営業時間		8:30 ~	19:00		
センターハウス開館時間		8:30 ~	20:00		

※夜間緊急のご用件（病気等）は、センターハウス玄関横のインターホンでお知らせください。

2 正門ゲートの閉門時間について

- ・オートキャンプ場手前約2kmに設置してある正面ゲートは、**20:00~8:00の間は、安全のため閉門します。**



3 キャンプ場内での遊技について

- ・**自転車・キックボード（持ち込み含む）使用は禁止です。**
- ・**野球・サッカー等のボール遊びは禁止です。**
（ボール遊び場をご利用ください。）



4 花火について

- ・花火は、**花火サイト（指定した砂場：3ヶ所）**で行ってください。
- ・**ロケット花火、打ち上げ花火、音の出る花火は禁止です。**



5 直火・焚き火の禁止について

- ・キャンプ場内での、**直火・焚き火は禁止です。**
- ・バーベキューは**別付のバーベキューコンロ（脚の長さ30cm以上）**をお使いください。
- ・焚き火は、焚き火台をお使いください。

6 消灯時間について

- ・**消灯時間は、22:00です。**
- ・消灯後は静かにし、周囲キャンパーの迷惑となる様な行為は禁じます。
- ・キャビン・トレーラーの軒灯は、お休みの際は、消灯をお願いします。

7 ペットの扱いについて

- ・犬等のペットは、**緑物の中への連れ込みは一切禁止です。**
- ・別紙の『ペット同伴の注意事項』のルールをお守りください。

8 ゴミの処理について

- ・ゴミの分別方法については、別紙の『ゴミ分別表』のルールをお守りください。

9 シャワールの利用時間

- ・ご利用時間は、夜11時までです。（1回100円 5分間）

ひなもりオートキャンプ場

